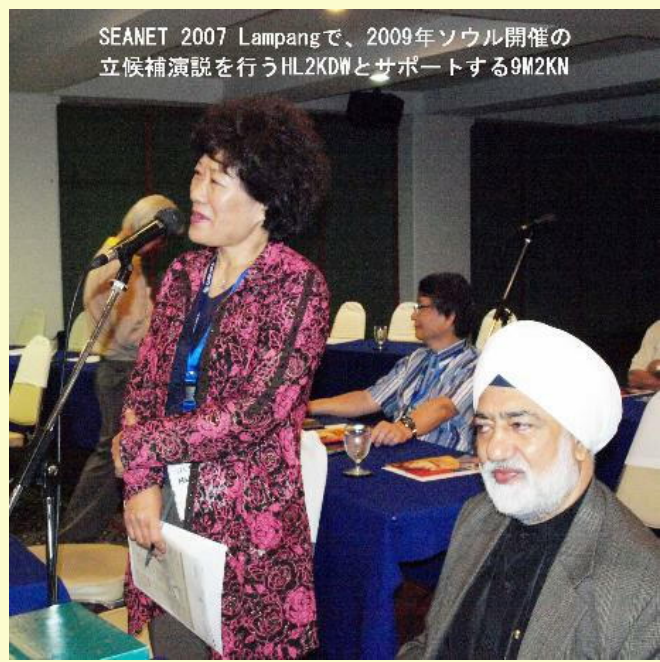


SEANET2009Seoulの経緯とお誘い

JE3BEQ 宮本 誠一

SEANETは、South East Asia Amateur Networkの略で、毎日1200UTC (日本時間の21時)から14.320Mhzでロールコールを行っている形式ばらないグループのことで、1971年の12月末から翌月の初めにかけて、マレーシアのパナン島でアイボールQSOしたのがSEANETコンベンションの始まりで、その後幾つかの例外を除いて毎年開催されています。37回目の今年は、韓国のソウルで10月23日から27日の5日間に亘って行われます。SEANETの参加申し込み及び詳細に関しては、インターネットのSEANET 2009ホームページをご覧ください。(Googleで簡単に検索できます)



SEANET 2007 Lampangで、2009年ソウル開催の立候補演説を行うHL2KDWとサポートする9M2KN



SEANET 2008 Kota Kinabaluで9M6TWからSEANET旗を受取るHL2KDW

私のSEANET歴は2003年のジョホールバルから現在まで続くが、そのきっかけは今亡き三好二郎 (JA3UB) XOMに熱心に誘って頂いた御蔭であった。当時は大阪国際交流センターラジオクラブ (J13ZAG) に入会して間がない時期で、初めての国際的なHAMのイベントに参加できることに興奮したことを思い出す。ジョホールバルでは新人!のSEANETerとして熱烈な歓迎を受け、東南アジアだけでなく世界各国から集まって来る人達の、年に一度のアイボールQSOを楽しむ様子を見た。何も知らずに三好さんに同行した私であったが、その伏線にすぐ気付くことになった。SEANETコンベンションは、東南アジアに限らず既にマドラス (現在のチェンナイ) (インド) やダーウィンとパース (オーストラリア) で開催されていたが、そろそろ日本での開催を望む声が出ていて、それに如何に応えるべきかの重要で意義深い時期を迎えていたのであった。



The Worldwide YL Meeting in Seoul, 2004 세계 여성 아마추어 무선 사서 올
주최: 한국여성아마추어무선사회 (Korea Ladies Amateur Radio Club)
후원: SK Telecom, Diamond Water, Korea DX Club (KDXC), 엘파클럽
주관: K L A R C, 영문테크니
일시: 2004년 10월 8일 -

YLミーティングをホストするHL2KDW

ジョホールバルに入る前日シンガポールで一泊したが、そこで今年のSEANETコンベンションの開催責任者であるChae (HL2KDW)さんとKang (HL2DBF)さんらに初めて会った。二人には2004年に主催するWorld Wide YL Meeting in Seoul Koreaについて知ってもらう目的があったが、もし大阪でSEANETコンベンションが実現したらソウルでも行いたいとの強い意志を持っていることも知った。その翌年Chaeさんは、YLミーティングを見事に成功させた。その期間がちょうど我々のクラブの月例会の日にあたるともあり、その月の例会はソウルで開くことにクラブの準行事として我々も参加した。一方SEANETコンベンションは、同じ年のバンコック開催で荒川 (JA3AER)さんが正式に立候補の演説をし、2年後の東(極東)アジアでは初めての開催になるSEANET 2006 Osaka が決議され、念願がなつて成功裏に開催できたことは皆さんのご記憶に新しいところであろう。

SEANET2009ソウル プログラム

- 10月23日 (金)
- 14.00 ~ 受付
- 18.00 ~ 紹介、歓迎パーティー、ディナー
キャピタルホテル宿泊

- 10月24日 (土)
- 09.00 ~ 軍事境界線見学、集合写真
- 13.30 ~ ソウル市とインサドン観光
- 18.30 ~ ウォーカービルショー鑑賞
- 21.30 ~ 東門市場ショッピング (オプション)
キャピタルホテル宿泊

- 10月25日 (日)
- 09.00 ~ ソウルフリーマーケット(ヨンセイ大学)
- 11.00 ~ キョングボク宮殿
- 14.00 ~ ソウルタワー
- 15.30 ~ ホテルに戻り自由時間
- 19.00 ~ ガラパーティー、コンテスト表彰
キャピタルホテル宿泊

- 10月26日 (月)
- 06.00 ~ ソラク山へ出発
- 15.00 ~ ホテルへ出発
- 19.00 ~ 夕食 (カーネ駅)
- 21.00 ~ キャピタルホテル宿泊

- 10月27日 (火)
- 09.00 ~ プレゼンテーション、次回開催地決定
- 12.00 ~ 昼食
解散



Chaeさんはこのときからソウル開催に向けて活動を本格化し、翌年のSEANET2007ランパンで2009年の開催地に決まった。従来SEANETコンベンションは三泊四日の開催が恒例となっているが、今年のプログラムは遠距離の観光プランを加えて一日増えた豪華なものになっている。心尽くしのプログラムから、参加者に楽しんでもらいたいと願うChaeさんの思いが伝わってくる。
三好さんはかねがねSEANETソウルにはクラブメンバーが連れ立って参加し、Chaeさんを応援したいと仰っておられました。皆さん、ご都合のつく方はぜひ一緒に参加しませんか。ハムでない方も誘い下さい。三好さんの喜ばれるご様子が目に浮かぶようです。
(de JE3BEQ)

テクニカル・メモ 160m バンド スローパー式タワードライブアンテナのインピーダンス整合

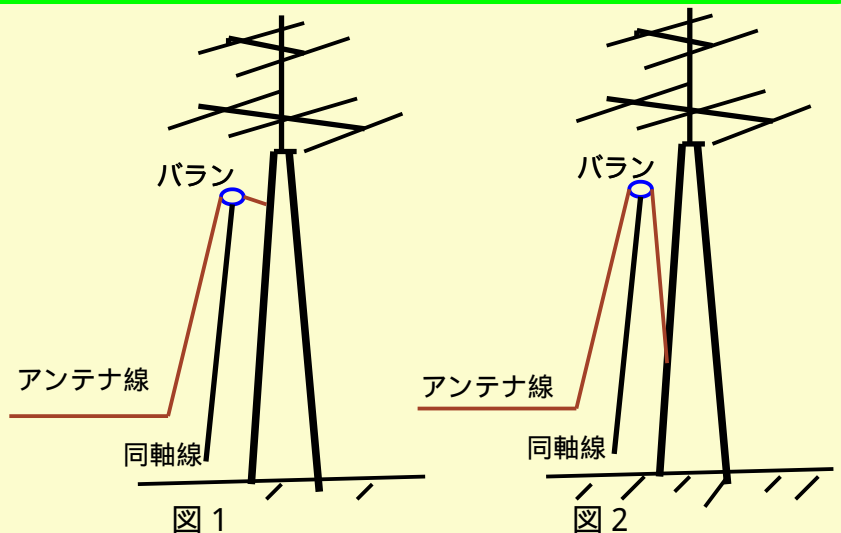
タワーを放射体として使うローバンドアンテナについて、小型のタワーでも比較的容易にインピーダンス整合が実現できる方法についてレポートいたします。

J13ZAG-NLでもこの種のアンテナのレポートがされていますが、アンテナタワーが低かったり、そのタワーに搭載されている八木アンテナなどの規模が小さいと(図1)に示す給電方法では、160mバンドで50Ωにインピーダンスを整合させるのが困難な場合があります。

(図2)のようにバランから鉄塔の低い位置に結線することでタワーやその上のアンテナのブームの規模が小さくても整合できました。

私の場合はクリエートの2.0m高のタワーにブーム長5mの3エレSteppIRとAFA30(10MHz 2エレHB9CV)を載せた比較的小型なタワーで1.820MHzにおいてSWR=1.5を得ることが出来ました。さらにタワーへの接続高さを根気よく調整すればもう少しSWRを良く出来ると思います。

図1ではタワーへの接続は高いところではないといけません、図2ですとタワーの低いところで接続するので作業が楽です。私の場合はバランをタワーに付けた滑車で引き上げて設置しています。また調整時は同軸線の長さを1/2にしてSWRチェッカーを使うとバランの入力端子のインピーダンスを測ることが出来るので調整が容易になります。調整後は同軸の長さは任意の長さで使えます。図1のアンテナではアンテナ線の引き下ろし点をタワーに近づけたり離したりして共振インピーダンスをアンテナ線の長さを変えて周波数を合わせます。図2ではアンテナ線の引き下ろし点ともう一方のアンテナ線のタワー接続点の高さを調整してインピーダンスを合わせます。周波数の調整は水平部の長で調整します。最初は少し高い周波数に合わせてから周波数調整をします。殆どのアンテナ・アナライザーの最低周波数が1.7MHz程度なので、低い周波数から調整しようとしても測定範囲を逸脱するので状況把握が困難となります。



第25回JAIGミーティング2009フライブルグ参加記

JE3BEQ 宮本 誠一

ドイツで開催されるJAIGミーティングに参加するのは、2006年のザルツブルグに続いて今回が2度目である。ザルツブルグはモーツァルトの生誕200年で沸いていたが、フライブルグの最寄りライブチツピはバッハ・メンデルスゾーンの所縁の場所でゲバントハウスやオペラハウスがあり、又「ベルリンの壁崩壊」のきっかけとなったニコライ教会など興味深々で、長く続いた父の介護を終えたこの機会を利用してその文化と景観にも触れたいと、今回のJAIGミーティングへの参加を固く決めていた。

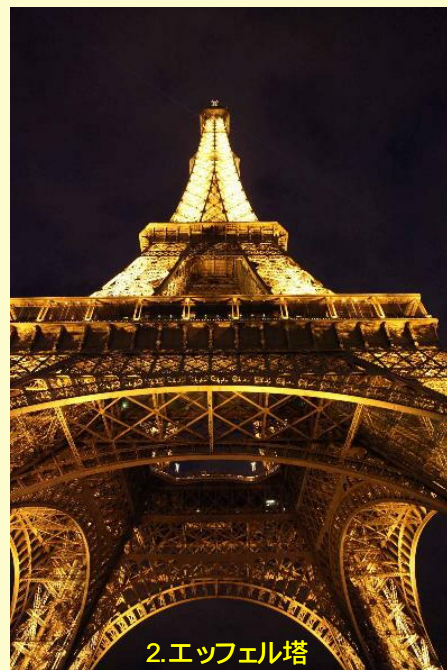
リタイヤして暇になったら家内と一緒に海外旅行を楽しもうと合言葉のように言ってきたが、実際は両親の介護や家族の一員(ペット)が新たに増えるなどでなかなか実行できない。SEANETとYLミーティングには夫婦で参加できたが、一度はと願望しているドイツでのJAIGミーティングには、今回も同伴できなく一人旅となった。それならばせめて未だ行ったことのないフランスにも立ち寄りたいたいパリに2泊した。この欲張りは久しぶりに的中した。午前の市内観光、午後のベルサイユ宮殿もこの目で実際に見ることができて感動したし、夜はタクシーを何台も乗り捨ててシャンゼリゼ、エッフェル塔などのライトアップを満足するまで写真に撮った。写真にはこだわりがあり毎年続けている写真展用の作品収集が旅行目的の一つでもある。いつもはスナップ用の小型のデジタルカメラと大判に伸ばすためのフィルムカメラのライカM7を携行していたが、今回は直前に重量級のフル機能のデジタルカメラ(EOS 5D M)を手に入れ、一度はその重さに携行するのを諦めかけたが、丈夫な鞆を買い直してさらに重たい望遠レンズと一緒に持って出掛けた。



1.黄昏の凱旋門

最新のデジタル一眼レフカメラの機能には驚かされる。ISO感度が通常使用域で6400にも上がり(画像ノイズの点でここまで使うかは別として)、宮殿の中でもドームの中でもフラッシュなしで高い天井画がきれいに撮れる。スローシャッターの時は手ぶれ防止機能が有効で三脚なしでも水の流れを止めずに撮れる。最後の絵にすることは、インクジェットプリンターとその専用紙の性能が印画紙と並んだ。もうフィルム(銀塩写真)の時代は過ぎた。さらに一日で撮った写真の枚数はJPEGで500枚超(4ギガバイトのコンパクトフラッシュメモリー枚分)で、36枚撮りフィルム14本分に相当し、リバーサルの現像代だけでも一万円を超える。確かに時代は変わった。苦労して手に入れ愛用してきた憧れのライカは、今やリグの「コリンズ」になってしまい実用よりは収集目的にその価値は移行した。(写真1、2、3)

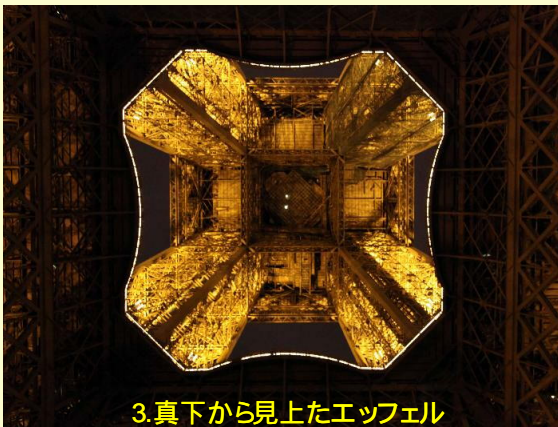
パリの二日目は、ライブチツピ行きの飛行機の時間まで時を惜しんで街の中を歩き回った。不況と財政難で工事の凍結や中止の跡が多く見られた。環境・清掃面でもあまり綺麗ではないとバスガイドが言っていたが、特にそういう印象は持たなかった。といことは過っての「パリ」は映画に見るようにもっと素敵であったのか？人の歩くスピードが速いこと、一見交通マナーが悪いようであるが自分の体は自分で守って合理的に秩序を保っている(日本のように青信号だからとメールをしながらだらだらと横断する現在の風潮などは、精神構造的に遅れていると憂いているのだが)のは流石である。歩きながらの smoker も特に女性に多かったが、規制に嵌められるのを嫌う国民性の勢いのためか、日本で感じる不快さ(規制の中での急情感)はなかった。(写真4)



2.エッフェル塔

4月29日

目一杯パリを楽しみシャルルドゴール空港からライブチツピ空港へと向かった。空港でスーツケースを待つ間到着ロビーの方を窺うと、扉の向こうに吉岐さんの手を振る姿を垣間見ることができた。スーツケースは一番に出てきてすぐエリカさんとお二人にお迎え頂いたが、飛行機は遅れて到着してお待たせしてしまった。一人旅の緊張が解けてリラックスした瞬間であった。空港からホテルまで小一時間エリカさんの運転でドライブを楽しませて頂いた。途中アウトバーンの巡航速度は140Kmで、気分が悪くなったら言うようにと気遣って頂いた。



3.真下から見上ったエッフェル



4.パリのカフェで

壱岐さんはナビゲーター役に専念し、途切れなく話しかけるエリカさんにやさしく丁寧に返していた。我が家も最近殆ど家内の運転に依存しているエリカさんと同じように話しかけてくるが、口数の少ない私のナビゲーターぶりは壱岐さんのような愛情がこもっていないのではないかと反省させられた。車窓からの眺めはいけども行けども平坦な地形で、四方を見渡しても山が全く見えない。そして広大な黄一色の菜の花畑が延々と続く。緑はこれもまた広大な麦の種類の畑だぞうだ。この辺りはドイツの穀倉地帯で自給率も略100%とそのスケールの大きさに驚かされる。



5. 広大な菜の花畑

周辺にはブドウ畑が広がっている。何れの畑も人気は見られないが、手入れが行き届いているのであろう見事に綺麗であった。そんなブドウ畑を曲がった小高い丘の2目に、今回のJAIGミーティングの会場となるホテルが建っていた。(写真5)

シャワーを浴び着替えて食堂に行ったら、十人ほどの先着組が食事歓談していた。その殆どが懐かしJAIG2004大阪からのメンバーとJAIG2006ザルツブルグで会ったメンバーでお互いに再開を喜びあった。(写真6)



6. 夕食歓談中の先着組

4月30日

壱岐さんからお声がかかって大西さん (JA3PE) をナウムブルグ駅にお迎えに行った。小振りのスーツケースを引っ張りながらゆっくりとホームを歩いてこられる姿は、外国通で旅慣れた風格を感じる。スーツケースが小さいのは、下着ごとシャワーを浴びてその場で洗濯するので着替えが一揃いで済むからと実践論を披露された。一度真似をしてみたいと思うが、何事も前もって準備しておかないと気になる性格では返ってストレスが溜まりそうで躊躇してしまう。ホテルには各部屋にバルコニーがあり気兼ねなく喫煙できることに安堵されていた。(写真7)



7. ナウムブルグ駅に着かれた大西さんと出迎えの壱岐さん

大西さんをお迎えして帰ってきたころから続々と皆さんが到着しだし、ざっと見たところJAIG2004大阪のメンバーの殆どに合うことができた。私が個人的に印象に残っているブルーノさん(DH8MAU)やガストンさん(DL9TZ)らは今回残念ながら会えないことが分かったが、どちらも連絡があり元気にされていることを壱岐さんから伺った。

レジストレーションを済ませエリカさん手作りのバッジと記念のタグを貰った後、その夜のメインイベントであるワインの試飲会が始まった。ワインの女王が都合でこれなくなりその代役を務めるインテリ眼鏡の美女(学生)が笑いを誘いながらワインの講義をし、約10種類を試飲させてくれた。プロ、セミプロ、アマチュアを自称するワイン通の我がメンバー達は、自己満足もお構いなしに評価を披露し合い、利き酒を楽しみ酔ってしまった。最初はドイツ語が分からなかったのが美女のプロポジションに見とれていたが、約30年前仕事で初めてデュッセルドルフに出張したとき、ドイツの若い女性が美しいのを見てポーツとなったことを昨日のこのように思い出していた。(写真8)



8. ワインの女王代行と



9. 太陽の周期を観測するため丸太で作った巨大分度器



11. ロマン漂う天文盤

5月1日

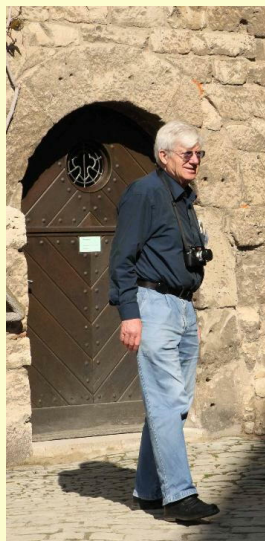
この日は天文学の勉強の1日であった。午前中のゴーセックにある7千年前の太陽観測所は、2002年に、幾つかの現在知られている巨大遺跡と同じように航空写真によって発見されたもので、夏至、冬至、彼岸など太陽の1年の周期を当時の生活に取り入れている様子を再現したものであった。ライプツヒからJAIG会場となるホテルに向けてエリカさんの運転で広大な平地を行く様子を述べたが、その広大な平地に丸太を立てて並べて巨大な分度器を形成し、丸太の間から差し込んでくる太陽光の方位角度で太陽の1年の周期(季節)を把握していたと言うからすごい。最近の発見で現在も研究中とあるから興味が尽きない。(写真9、10)

午後はネブラにある天文博物館を訪れた。そこには3千6百年前に作られた太陽、月、星の動きを示す天文盤が展示されていた。これも2002年に、盗掘されドイツの街で売られているのを発見した最近の出来事であり、ロマンが漂っている。この天文盤はその時代の内に新しいものに進化したというから、技術の進歩は3千年以上も前から日進月歩であったのである。(写真11)



10. 古代人の太陽観測の説明をするボドさん(JAIGのWEB SITEより)

夕方古城のルーテスブルグで夕食をとり、古城の横に沈む夕日をなんとか芸術作品に仕上げたいと思ったが、こんな時に限って望遠レンズを重いからと言う理由でホテルに置いてきた。100ミでは夕日が小さすぎ、出来栄は絵葉書写真にも及ばなかった。しかし中世の古城の住人の気持ちで眺めた夕日はロマンチックであった。(写真12)



13.ライカM8を愛用するペーターさん



12.古城に沈む夕日

5月2日

午前中は自由行動で、皆さんゆっくり起床し朝食をとった。ホテルは小高い丘の2合目にあったが、丘の天辺に城と塔があり殆どの皆さんはそれを見学に行った。このときペーターさん (D03LKP) がライカM8をぶら下げているのに気付いた。前夜彼と再会したとき3年前のザルツブルグで彼が携帯していた小型のライカのデジタルカメラのことを話したら、彼はあのカメラは直後に無くしてしまったと寂しそうに語った。それはお気の毒と同情したら、無くしても良いこともあったと彼はポツリと言った。そしてその意味が今分かった。彼はマニアにとっては垂涎的であるライカM8を手に入れていたのである。先にライカをコリンズのリグに例えたが、技術的にはライカは取り残された過去のカメラである。最新のカメラにも無いライカの最大の特徴は、タイムラグなしで瞬間にシャッターが切れることである。但し露出(絞り)とシャッター

のスピード)と焦点(ピント)は自分で予めセットしておく所謂マニュアル(電子式でなく機械式)カメラであり殆どのカメラユーザーはプロ・アマチュアを問わず見向きもしない。今やバカチヨ機能がライカ以外の最高級機種には搭載され、全自動で実用上問題の無い(?)タイムラグで写真が撮れるようになっており、ライカはコリンズ同様主流から外れた。しかしタイムラグが自分の指先の動きだけのデジタルカメラはライカM8しか現存しないのも事実(厳密に言うライカのイメージモデルのエプソンRD-1がある)。今回携行することを目的として購入したカメラはこの点が最大の選択枝であったが、結果的に私はコリンズをあきらめてIC7700を選んだようなものであった。しかしペーターさんはコリンズをぶら下げ、ゆっくり写真を楽しんでいるようであった。(私はのべつ幕なくシャッター切っているのに、彼がカメラを構えている姿はついぞ見る事が無かった。)(写真13)

午後ナムブルグの街に行き、中世の交通の要所として栄えた美しい街の広場を起点にそれぞれが自由に散策を楽しんだ。大堀さん夫妻 (JRODLU, J10SBR) がここで合流され、再開を喜び皆さんに取り囲まれていた。壱岐さんに街のシンボルでもある大聖堂に誘って頂き、また一つ足跡を残すことができた。(写真14)

15.JAIGミーティング開会を宣言される壱岐さん



夕方ホテルに戻り夕食に向かった。ふとみると皆さんは既にパーティー用に着替えている。私は食事の後着替えるつもりでいたが浅はかであった。夕食時間をゆっくり取りそのままパーティー会場に移動するのだからそんな余裕はない。そこで食事がテーブルに並ぶ合間に抜け出し大急ぎで着替えて何食わぬ顔で戻ったつもりであったが、エリカさんに感づかれてグッドと言われ思わず顔が赤くなった。

16.挨拶を頂いた市長さんとワインの女王

食事が来る前に隣席の鶴見さん (DJ00Q) に壱岐さんが何か応援を求めてきて、二人で慌ただしくパーティー会場になる地下のワイン貯蔵庫に走って行った。私も気になるのので後を追ったら、エリカさんと3人でJAIGのフラグ2旗をワインの大樽に固定しようとしていた。私はこれから始まるメインイベントのJAIGミーティングを前にして、壱岐さんがかなり疲れているのを状況から感付いていた。さっそく壱岐さんに代わって鶴見さんと私は大樽に食らいつき、少しでも役に立とうとの思いでお手伝いをした。周囲を見渡したら、パーティーの準備は万端整い開宴を待つのみであった。

17.表彰されたトマス、ペーター、壱岐の皆さん

夕食後場所を地下のワイン貯蔵庫にあるホールに移し、第25回JAIGミーティングが開催された。壱岐さんは第25回の記念すべきミーティングの挨拶を万感の思いでされたと思う皆さんの拍手には壱岐さんとエリカさんへの感謝の気持ちがこもっていた。最初にサイレントキーになられたハンス・コルデスさん (DJ4AZ)、エーリッヒ・エルバートさん (DL9VN) に黙祷を奉げたあと、フライブルグ市長のウド・メケさんとワイン女王のケルスティン・フリーゲさんの手厚い歓迎の挨拶を受けた。引き続いてJAIGの活動に貢献された方々の労をねぎらう表彰に移った。JAIG賞はペーター・シッケルさん (DG0JT) に、第25回の特別賞はネットコントローラーを務められている五十嵐さん (JA1DKN、東京で授与済み) とドイツ語のJAIGホームページの作成と更新に尽力されているトマス・シュバントさん (DH7TS) に贈られた。そして今回の記念すべきミーティングに際し、JAIGを発起してここまで引っ張って来られた壱岐さんに対して、ミュンヘン在住の有志が壱岐さんに内緒で特別賞を用意していた。すべての参加者が感謝と祝福の拍手を贈って、壱岐さん・エリカさんは元々全員が幸せな気分になった。そして来年のJAIGミーティングについて、2004年に引き続いて再び大阪で開催したいという要望が強いので検討を進めてきたことが紹介され、前回参加しなかった人を優先して参加を募る旨話があり私にバトンタッチされた。私は大阪国際交流センターラジオクラブの有志が、ホームランドで前回同様JAIGミーティング2010開催のお手伝いをすることを伝えたが、一瞬どよめきが起こり「前回の参加者は参加できないの?」の声が聞こえてきて、日本での開催が大いに期待されていることを実感した。(写真15、16、17、18)



18.自ら表彰されて感激する壱岐さん

余興は、男性歌手のトニーさんがコンパクトな伴奏マシンをバックに杯を酌み交わしおしゃべりに余念のない皆さんの間を歌って歩き、雰囲気醸し出していた。私もエンターテナー役を買って出ることが多いので、あたかもバンドを引き連れているようなこの伴奏マシン(画面に歌詞が出て伴奏が流れる日本のカラオケとは異なる)に興味があった。

トニーさんに皆を歌わせたいので私が持ってきたCDがその伴奏マシンにかからないかと頼んだら、彼は気持ち良く応じてくれた。その伴奏で春に因んだ唱歌2曲を日本の皆さんで歌い、最後は全員で野ばらの合唱になった。私がマイクで皆をリードしたところ、なんと美しい歌声が聞こえてくるではないか。私は思わずその声の主の大堀裕美さんにマイクをタッチしたが、皆さんはその歌声に酔いながら自らも歌って大いに盛り上がった。念のために用意したCDと余興歌詞が皆に喜んでもらえて私も幸せであった。宴は名残りが尽きないなか、23時を過ぎて漸くお開きとなった。(写真19、20、21)



14.大堀夫妻が合流

5月3日

昨夜の余韻も冷めやらぬまま、最終日のゆっくりした長い朝食を皆さんで囲んだ。その間別のホテルに滞在している大堀さん夫妻、井口さん夫妻 (DJUCT) が別れのためにわざわざ訪ねて来られた。旅慣れた大西さんは再び小さなスーツケースを引っ張って、吉岐さんの車で下の駅まで見送られながら鉄道の一人旅で帰って行かれた。初めてお会いして通訳他で面倒みて頂いた同宿の鶴見さんには、来年のJAIG大阪で父上同伴での再会を約束して別れた。私は、今回のライブ開催の世話をされたポドさん (DB7HB)、ギャビーさん夫妻にライブチケットまで車で送って頂いた。車中ではどちらのお好みかわからないが古き良き時代のアメリカンポップスが流れており、それにギャビーさんが鼻歌で合わせて和やかな雰囲気の中、再び例の広大な田園風景のドライブを楽しませて頂いた。昼過ぎにホテルに着いたがライブチケットの街を案内してあげようと言われ、夕方またお会いしてお言葉に甘えた。東西の壁崩壊の起点となったニコライ教会をはじめ、ゲバントハウスやオペラハウスなどの由緒ある場所を訪ねることができた。大変興味のある場所であるので、撮った写真を持ち帰ったパンフレットや旅行案内書と照合して、知識として整理するのが楽しみである。



19.皆さんに歌って頂こうと頑張る筆者

最後に

今回のJAIGミーティングは、四半世紀の足跡を記念する特別なものであったと思う 個人レベルで長きにわたりこのような国際的な活動を継続し親睦を図ってこられた吉岐さん・エリカさんご夫妻のご努力に心から敬意を表すると共に、参加された全ての方々と有意義で楽しい時間を共有できたことにも心からお礼を申し上げる次第である。有難うございました。来年のJAIG2010大阪で又お会いできるのを楽しみにしています。73

(de JE3BEQ)



20.大堀さんの素晴らしい歌声で野薔薇を合唱



21.ワイン貯蔵庫でのJAIGミーティング(JAIGのWEB SITEより)

Microwave Update 2008に参加して

JA3IVU 北井 十生

Microwave Update 2008が10月17日から18日までアメリカ ミネソタ州 Bloomington (ミネアポリス市のすぐ南側)で開催され、日本からJA3 BMH (三上さん) JA3LGP (足立さん) JR3JZM (上島さん) の4人が参加しました。MUDはアマチュアバンドの主にマイクロ波を製作・運用する人たちが年一回集まって製作事例、運用等を発表しています。私は、昨年、フィラデルフィアで開催されたときに初めて参加しました。参加者は主にアメリカ、あとカナダ、日本イギリス等で約80人集まりました。内容は、2.4GHzから24.1GHzまでのバンドにわたり、ソフトウェアラジオ、EME、遠距離間通信、アンテナ、アンプ、プリアンプ等製作の技術的なものばかりです。中でも24.1GHzで100kmの距離の運用、2.4、4.7、7.7GHzでのEMEと感心される発表もありました。

夜は、フリーマーケットが開かれ各人がいろいろなマイクロ波の部品、測定器、アンテナ等を出品しています。これを売買するには、相当目が肥えていないと何をやるものか何に使えるのかもわかりません。さすがにアメリカ、日本国内に無いものがたくさんありました。もちろん日本からもっていった部品等は売っていました。

その間に、ミネアポリスにある「Pavek Museum of Broadcasting」(放送博物館)に行ってきました。ラジオ放送が開始されたところからの真空管式ラジオが年代順に陳列され、また当時の真空管も多数ありました。まあ、これだけの真空管、ラジオを集めたか感心しました。また、博物館の中にアマチュア局(W OEP)が開設され、コリンズのSラインが机上に並べられ、外にはクラクアップタワーにHF帯用の八木もありました。タイタニックが使用したような電動機高周波発電機を使用したと思われる火花式送信機があり、係の人が後ろへ下がれいというのでそうすると実演し、「パチパチ」というスパークが飛びました。

10月17日の朝 大阪国際空港から成田国際空港、昼のJAL便で成田からシカゴ オヘア国際空港 国内線のAAAに乗り換えてミネアポリス・セントポール国際空港に現地時間14時ころ到着しました。会場のホテルは郊外にあり、食事をするにも車がないと行けませんので一度はホテル内のレストランで食べましたが高いので、あとは持って行ったラーメンなどを食べました。ほんとにアメリカは車社会ですね。テレビを見ていると「大統領選挙」の真最中だったのでゴールデンタイムにそれも長々と選挙用のCMを流しています。こんなことを毎日していたらお金がいくらあってもたまりません。それも相手候補の悪口を言っているようでした。(英語がよくわかりませんので...) アメリカでは地上アナログ放送が2009年2月17日とせまっているので盛んに地デジに対応にするようFCCの高官、州の高官、放送会社団体(NAB)のが出演してPRをしていました。また、チューナとテレビの接続方法など詳しく説明していました。日本ではまだ「草薙くん」がでていますが政府高官はまだ一人もPRに出演していません。本当に2007年7月24日までにできるのでしょうか。??? 来年(MUD2009)は10月にテキサス州ダラス市で開催される予定です。

去年はフィラデルフィアだったのでシカゴからワシントンDCに行き、市内観光(ホワイトハウス、スミソニアン博物館など)。

あくる日にアムトラックに乗り、列車でフィラデルフィアに入りました。そのときも足立さんと一緒だったのですがワシントンDCのユニオン駅で足立さんがいなくなってしまうとあせりました。幸いにもチケットは持っていたので列車に乗ることはできました。持って行ったハンディ機で呼ぶと別の車両に乗ってしまっていてフィラデルフィアの30番駅に到着したとき降りてきてほっとしました。去年は、WJSTの開発者であり1993年にノーベル物理学賞を受賞したK1JT ジョゼフ・テイラー (Joseph Hooton Taylor, Jr) さんも参加されプレゼンテーションとディナパーティで記念講演をされました。そのとき会場に受賞メダルが回覧され手に取ることができました。回ってきたときにはそれとは知らず、なにかノーベルと刻印はしてありましたが... 知っていたら首にかけて写真を写しておけばよかったと後悔しています。

予定表 General Schedule

Thursday October 16, 2008		
9:00AM	Lobby	Meet for Surplus Tour
3 - 6PM	Martinique (outside)	Registration open
7:00	Barbados Room	Hospitality Suite open
Friday October 17, 2008		
7:30AM	Martinique (outside)	Registration open
8:00	Grand Cayman	Technical Sessions/ Presentations
9:00	Barbados Room	Vendor Rooms open
10:00	Martinique Room	Noise Figure and Network Analyzer
('til noon)		
11:45	Lunch (on your own)	
1PM	Grand Cayman	Technical Sessions/ Presentations
2:00	Martinique Room	Noise Figure and Network Analyzer
('til 4PM)		
5 - 7	Dinner (on your own)	
7 - 9	Grand Cayman	Flea Market
8:00	Hospitality Suite open	
Saturday October 18, 2008		
8:30AM	Grand Cayman	Technical Sessions/ Presentations
9:00	Barbados	Vendor Room opens
10:00	Martinique	Noise Figure and Network Analyzer
('til noon)		
11:30	Lunch (on your own)	
1 PM	Martinique	Noise Figure and Network Analyzer
('til 3PM)		
1:00	Grand Cayman	Technical Sessions/ Presentations
3:00	Barbados/ Martinique	Vendor Rooms close
4:30	Technical Sessions end	
6 - 7	Atrium	Cash Bar - Social hour
7 - 9	Grand Cayman	Banquet
9:00	Hospitality Suite open	

プレゼンテーション Presentation Schedule

Friday October 17, 2008 (0800 - 1630)	
VE4MA	INTRODUCTION & GREETINGS
W?ZQ	Microwave Activity in the Upper Midwest
N5AC	USB Programmable uW LO Design
K?CQ	Some Observations on Local Oscillator Phase Noise
Break	
K6HIJ	SBMS 3456 Transverter
WA1MBA	2008 Status of Progress Towards a 77- 78 GHz Amplifier
Lunch	
WA5VJB	Waveguide Basics
KM?T	20 Grids on 24 GHz
Break	
W1GHZ	Multiband uW Transverters For The Rover - Four Bands, Simple & Cheap
W2PED	24GHz Subharmonic mixer for 24 GHz
Saturday October 18, 2008	
VE4MA	Call to Order & Announcements
W?ZQ & All	Midwest Rovers
K?AWU	Using Softrock SDRs in VHF/ UHF/ Microwave Operations
Break	
W5LUA	Update of 24, 47 & 77 GHz EME Activity
WA8RJF	Digital Elevation Indicator
Lunch	
N2CEI	A Sample of One, Or, A New MOSFET Hybrid
WD5AGO	L and S Band Very Low Noise Amplifier Designs - Is Cooling Necessary?
Break/ Auction	
WA1ZMS	241 GHz Record > 100 km!
W1GHZ	Waveguide Filters You Can Build - and Tune



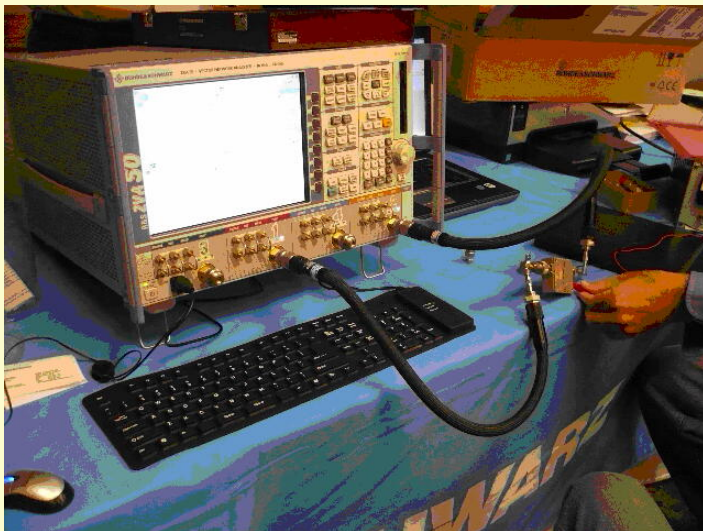
Pavek Museum of Broadcasting ,放送博物館のアマチュア局 (W OEP) コリスの前に立っているQSLカードは当局のもの



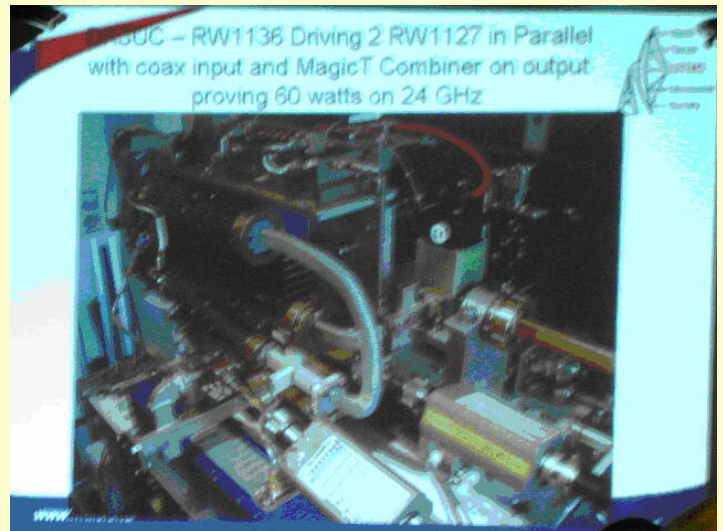
タイタニックが使用したような火花式送信機



MUD2008 プレゼンテーションの様子



測定器メーカー (Rohde&Schwarz) がネットワークアナライザでアンプの周波数特性を計っている。



24GHz 60W Amp

大阪国際交流センター・ラジオクラブ J13ZAG

Meeting : 1800 2nd Friday

Rollcall : 0900 Saturday, 21.360MHz